

平成19年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

取組分野：【交流】

1. 都道府県、市町村 青森県^{はちのへし}八戸市
2. 事業者名 三八地域県産材で家を建てる会
3. 取組みの名称 異業種連携による地域材利用拡大の取組
4. 取組概要等

概要

平成14年の新幹線八戸駅開業を期に、地域の林業・木材産業・工務店・塗装業・金属加工業等が駅舎内に地域の木材を活用したベンチを設置する取組を行う組織「八戸駅に県産材のベンチを置く会」を設立し、市民デザインによる地域産材のベンチを32基設置した。この活動を発展させ、地域材の住宅やまちづくりへの利用拡大を目指す組織として「三八地域県産材で家を建てる会」を平成15年に設立。地域の木材を住宅やまちづくりへ積極的に利用してもらうために、以下のような活動を積極的に行っている。

地域材PR活動

住宅に地域の木材を利用することが、長持ちする健康的な家づくりにつながることや、関連産業（林業・素材生産業・製材業・住宅産業等）の活性化に寄与するとともに、地域の森林を守ることにつながり、さらには地球温暖化防止にも役に立っているということ、あらゆる機会を利用しPRしている。

また、メンバーの仕事の現場を訪ねる「県産材住宅見学バスツアー」を開催し、木の伐採から家が出来るまでの一連の流れを体感できるイベントを実施。

さらに、県南地域に春を呼ぶお祭り「えんぶり」にあわせて県産材フェアや海の八戸NPOとの連携イベント、建築設計事務所協会との連携イベントなどを開催。

まちづくりへの取組

住宅のみならず、まちづくりに木材を多用してもらうために、八戸市庁舎あずま屋制作、海の朝市活性化のための移動式屋台制作、保育園のイスやテーブルなどの制作を行っている。

担い手育成

子供たちや学校の先生に林業や木材に対する知識を深めてもらうために中学生の林業体験学習や教員10年目研修（林業体験）を受け入れている。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
イベント			1	3	1
回数	解説 単位：回				
イベント			20	2,000	9,000
参加者	解説 単位：人				
PR活動			2	5	3
	解説 単位：回				

活用している地域資源

- ・地域で生産されるクリ、アカマツ、スギ、ケヤキなどの木材
- ・育林技術、伐採技術、製材技術、住宅建築技術等、職人の技術

地域活性化のポイント

地域の木材を地域で利用する動きが広まることで、地域の木材を地域で利用する動きが広まり、地域の林業、素材生産業、製材業、材木店、建築設計事務所、大工・工務店、左官業、建具製造業、内装業、板金業、住宅設備販売業等、地域密着型の中小企業が活性化するとともに、地域の森林を適切に整備するための経費が山元に還元されることにより、地域の自然環境が良好に保たれることにつながる。

その結果、地域住民の生活が守られ、「持続可能な地域社会」の形成につながる。

事業の今後の展開方向

今後も地域材利用促進のためのPRを中心に活動を続けていくこととしている。特に、伐採現場、製材現場、建築現場を積極的に体験してもらうことで、地域の林業や木材利用への理解を深めてもらいたいと考えている。

